

令和6年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和6年12月（平成26年から毎年12月に実施）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校34校、中学校32校、高等学校17校、計83校を抽出し、抽出された学校において、

各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校 2,797人（抽出率5.9%）

中学校 2,949人（抽出率6.3%）

高等学校 1,744人（抽出率5.7%）

合計 7,490人（抽出率6.0%）

※割合算出時に小数点以下の数字がある場合は、小数点第二位を四捨五入する。

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホとは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE X（旧Twitter）、Instagram、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

令和7年5月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概 要 〉 ※以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

① スマホの所持率

- ・「自分専用」及び「契約していない自分専用」のスマホを持っている割合は、小59.5%(58.1%)、中87.4%(85.3%)、高99.3%(99.2%)で、小・中で増加している。
- ・保護者が使用しなくなったスマホを子どもに与えているケースが増えており、小では「契約していない自分専用のスマホを持っている」割合が高くなっている。

② 平日にスマートフォン等を利用することが多い場面の割合

- ・全校種において「帰宅後の自由時間」が最も多い。中・高においては、「夜寝る前に布団の中での時間」も多くなっている。また、小・中では「宿題や習いごとが終わったあとの時間」での利用が多く、家庭のルールや自分の決めごとを守って利用している状況がわかる。

③ 長時間利用の割合及び学習への活用

- ・学習時間を除くスマホの利用時間の合計が、「平日1日に3時間以上」と回答した割合は、小24.0%(21.9%)、中31.4%(30.7%)、高34.0%(32.0%)となっており、全校種で増加している。
- ・一方、情報端末を学習に利用している割合は、小82.8%(82.8%)、中82.9%(80.6%)、高80.6%(83.3%)となっており、全国と比較してもその割合は高い。

※(%)は昨年度の割合

① 自分のスマホを持っているか

- ◆「自分専用のスマホ・携帯を持っている」「契約していない自分専用スマホを持っている(家族などから譲られたもの)」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	R4	R5	R6	対R5 増減	R6内訳		R6 対象数：人
					自分専用 スマホ所持	契約なし 自分専用 スマホ所持	
小	47.0	58.1	59.5	+1.4	40.8	18.7	2,797
中	78.3	85.3	87.4	+2.1	78.8	8.5	2,949
高	99.4	99.2	99.3	+0.1	96.8	2.5	1,744

※ 学年別のスマホの所持率(R6)

・小4	50.6%	小5	60.8%	小6	66.4%
・中1	86.0%	中2	85.6%	中3	90.1%
・高1	99.2%	高2	99.5%	高3	99.1%

② 平日1日当たり、どのくらいスマホを利用しているか

- ◆ スマホの利用時間の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)
<自分専用のスマホを持っている、または家族のものを借りて使っている児童生徒の回答>

	R4	R5	R6	対R5 増減	R6 対象数：人
小	19.2	21.9	24.0	+2.1	2,207
中	25.0	30.7	31.4	+0.7	2,743
高	33.7	32.0	34.0	+2.0	1,736

※学習の目的で利用している時間を除く

③ 平日にスマホ等をどのような場面でスマホを利用しているか

◆ 平日にスマホ等を利用することが多い場面の割合(%)
【9項目から複数回答】

	①	②	③
小	帰宅後の自由時間 (81.8%)	宿題や習い事が終わった後の時間 (66.4%)	朝起きて、家を出るまでの時間 (38.4%)
中	帰宅後の自由時間 (93.3%)	夜寝る前に布団の中での時間 (56.8%)	宿題や習い事が終わった後の時間 (52.0%)
高	帰宅後の自由時間 (90.4%)	夜寝る前に布団の中での時間 (66.0%)	朝起きて、家を出るまでの時間 (38.7%)

④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ サービスで何をするかの割合(%)
【8項目から複数回答】
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	①	②	③
小	ゲーム (23.3%)	音楽や動画等の視聴 (22.2%)	連絡(メール・LINE・通話など) (18.9%)
中	連絡(メール・LINE・通話など) (20.7%)	音楽や動画等の視聴 (20.3%)	ゲーム (16.6%)
高	連絡(メール・LINE・通話など) (19.6%)	音楽や動画等の視聴 (18.4%)	SNSを見る、投稿 (17.5%)

⑤ 情報端末の学習への活用

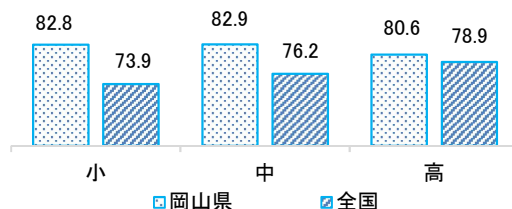
◆ スマホやパソコン、タブレットの学習への利用の有無の割合(%)
＜スマホなどを利用すると回答した児童生徒が対象＞

R6					
	学習に利用する				学習に利用しない
小	82.8 (±0)				17.2
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	63.0	14.2	2.4	3.2	
中	82.9 (+2.3)				17.1
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	65.9	13.6	1.9	1.5	
高	80.6 (-2.7)				19.4
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	62.8	13.6	2.6	1.6	

◆ どのようにスマホやパソコン、タブレットを学習に利用しているかの割合(%)【8項目から複数回答】
＜スマホなどを学習活動に活用すると回答した児童生徒が対象＞

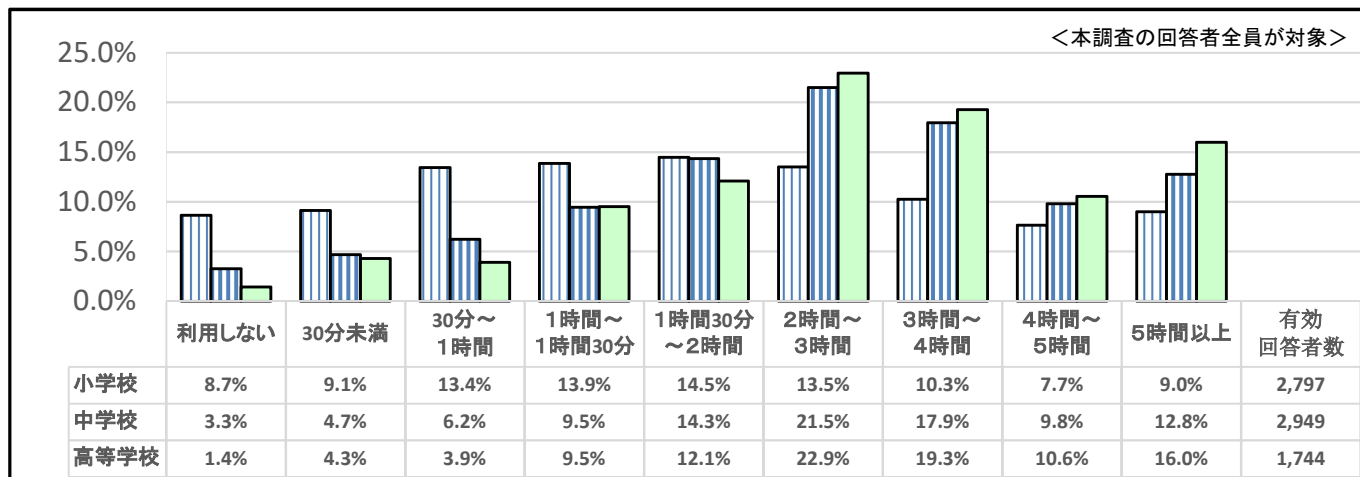
	①	②	③
小	勉強でわからないことを調べる (35.7%)	勉強のソフトやアプリを使う (14.2%)	スポーツや楽器の実技の動画を見る (13.3%)
中	勉強でわからないことを調べる (35.7%)	スポーツや楽器の実技の動画を見る (12.6%)	勉強に関する動画を見る (11.1%)
高	勉強でわからないことを調べる (43.3%)	勉強に関する動画を見る (13.6%)	勉強のソフトやアプリを使う (10.3%)

＜参考＞スマホ等の学習への利用の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果【内閣府 R6.3】による。

◆ 平日1日当たりのスマホ、パソコン、タブレットの利用時間別割合(%)



※ 学習の目的で利用している時間を含む

※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概 要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

・小・中で「嫌な思いをしたことがある」と回答した割合が増加している。小では「ゲームの中で友達や知り合いとトラブルになった」、中では「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」の割合が多くなっている。

② 「悩みや不安を感じている」割合

・「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は、小9.3%、中9.0%、高9.9%であり、全校種で増加している。

③ フィルタリングの設定率

・「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小51.0%、中51.7%、高40.1%であり、小・中で増加している。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合（％）
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	R 4	R 5	R 6	対R5増減	対象数：人
小	7.3	5.3	8.3	+3.0	2,357
中	6.9	6.6	6.8	+0.2	2,809
高	5.0	4.4	4.2	-0.2	1,693

◆ 「経験した嫌なこと」の割合（％）【複数回答】
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答>

	①	②	③
小	ゲームの中で友達や知り合いとトラブルになった (26.9%)	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された (20.0%)	その他 (12.8%)
中	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された (27.6%)	コミュニケーションサービスや掲示板などで悪口や嫌なことを書かれた (15.9%)	その他 (9.8%)
高	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された (28.0%)	グループからはずされた (11.2%)	その他 (11.2%)

<その他の具体的内容>

- ・小:「ゲームに負けてイライラした」「知らない人から電話がかかってきた」
- ・中:「LINEのアイコンを真似された」「グループラインでの喧嘩を見届けることになった」
- ・高:「SNSのフォローを外された」「他人の誹謗中傷を見た」

等

② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

- ◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	R 4	R 5	R 6	対R5増減	対象数：人
小	9.5	6.8	9.3	+2.5	2,357
中	12.1	8.0	9.0	+1.0	2,809
高	9.2	9.2	9.9	+0.7	1,693

- ◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%) 【15項目から複数回答】
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある児童生徒の回答>

	①	②	③
小	自分が書いた書き込みについて、後から「あれでよかったか」などと悩む (38.5%)	睡眠不足や視力の低下など健康の問題に関すること (34.9%)	使っているコミュニケーションサービスの中での人間関係 (31.7%)
中	睡眠不足や視力の低下など健康の問題に関すること (49.2%)	使っているコミュニケーションサービスの中での人間関係 (40.5%)	自分が書いた書き込みについて、後から「あれでよかったか」などと悩む (35.7%)
高	睡眠不足や視力の低下など健康の問題に関すること (41.7%)	自分が書いた書き込みについて、後から「あれでよかったか」などと悩む (38.1%)	使っているコミュニケーションサービスの中での人間関係 (37.5%)

③ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%) <自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答>

※ ()は昨年度比

	R 4	R 5	R 6			対象数：人
	設定している	設定している	設定している	設定していない	わからない	
小	42.0	49.7	51.0(+1.3)	19.9	29.1	1,140
中	43.6	47.3	51.7(+4.4)	23.5	24.8	2,325
高	36.6	42.6	40.1(-2.5)	36.9	23.0	1,688

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

(3) スマホの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概 要 〉

① 家庭のルールの有無

- ・「家庭のルールがある」と答えた割合は、小57.8%、中49.4%、高22.6%であり、全校種で増加している。
- ・「ペアレンタルコントロールを利用している」と答えた割合は、小45.3%、中40.0%、高19.1%であり、全校種で増加している。

② 家庭のルールの内容

- ・全ての校種で、「知らない人からのメール等に返信しない」、「困ったときは保護者に相談する」が多い。
- ・小・中では「使う時間について決めている」、高では「他人が傷つくような書き込み等はない」が多く、スマホの利用については年齢が上がるにつれ、ルールからマナーへと変化している様子が見られる。

③ 危険性等の学習の状況

- ・スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、前年度同様に全校種で高い水準を維持しており、全国と比較すると、小+11.7%、中+8.3%、高+6.1%とその割合は高い。
- ・全ての校種において、「学校」で学んだ、教えてもらったと答えた割合が高く、情報モラル教育の成果がみられる。

① スマホの利用に関して家庭のルール等が設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%)

＜普段からネットやSNSを利用している児童生徒の回答＞

※ ()は昨年度比

◆ ペアレンタルコントロールの利用の有無に関する回答の割合(%)

＜自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答＞

※ ()は昨年度比

	R4	R5	R6			対象数：人
	ある	ある	家庭の ルールが ある	自分の 決めごと はある	ない	
小	57.8	55.9	57.8%(+1.9)	14.1%	28.1%	2,357
中	51.6	46.0	49.4%(+3.4)	15.7%	34.9%	2,809
高	21.2	20.6	22.6%(+2.0)	22.1%	55.3%	1,693

	R4	R5	R6			対象数：人
	はい	はい	はい	いいえ	不明	
小	31.9	39.2	45.3%(+6.1)	30.4%	24.3%	1,140
中	30.8	34.4	40.0%(+5.6)	43.2%	16.8%	2,325
高	10.9	15.7	19.1%(+3.4)	67.0%	13.9%	1,688

② どのようなルールを決めているか【13項目から複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%)

＜スマホの利用に関して家庭や自分のルールが設定されている児童生徒が回答＞

	①	②	③
小	使う時間について決めている (69.2%)	困った時は、保護者に相談する (48.5%)	知らない人からのメール等に返信しない (45.6%)
中	使う時間について決めている (63.2%)	困った時は、保護者に相談する (47.9%)	知らない人からのメール等に返信しない (46.0%)
高	他人が傷つくような書き込み等はない (47.4%)	知らない人からのメール等に返信しない (45.1%)	困った時は、保護者に相談する (44.1%)

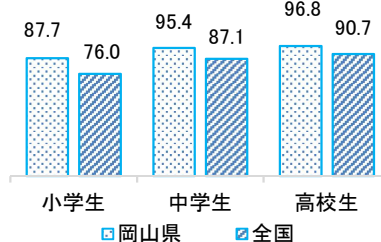
③ スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりしたことが「ある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験の有無に関する回答の割合(%)

＜本調査の回答者全員が対象＞

	R 4	R 5	R 6			対象数：人
	ある	ある	ある	ない	不明	
小	84.7	87.7	87.2%	6.5%	6.3%	2,797
中	95.7	95.4	96.0%	1.8%	2.2%	2,949
高	96.6	96.8	96.0%	1.7%	2.3%	1,744

※ スマホ等の危険性の学習の状況

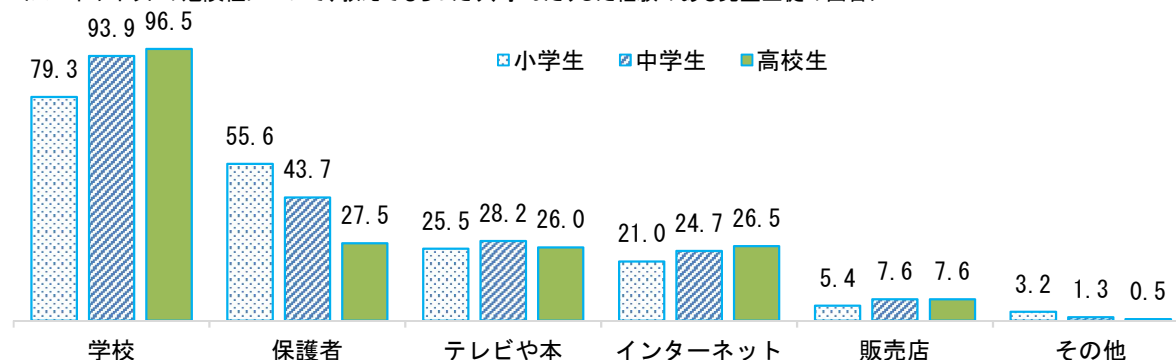


全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果(速報)【内閣府 R6.2】による。

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)

【6項目から複数回答】

＜スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答＞



【参考】ネット依存傾向について <令和6年度岡山県学校保健概要調査（R6.12）速報値から>

○ネット依存 <アメリカ心理学者 キンバリー・ヤング（1965－2019）>

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピューターや携帯が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」

【ネット依存傾向チェックシートの概要】－保健体育課－

◆小学生：簡易版8項目 ※○の数で判定

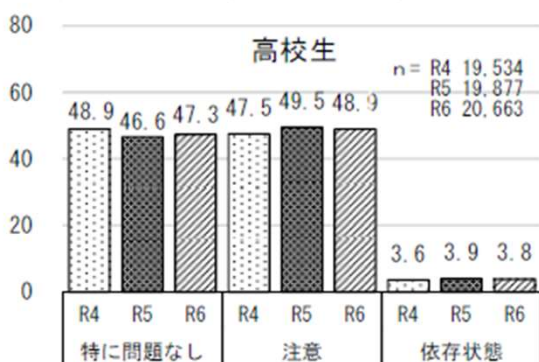
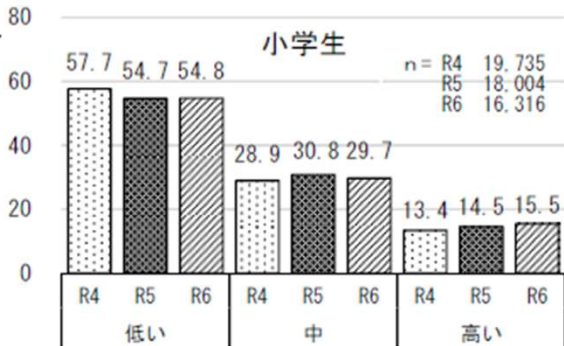
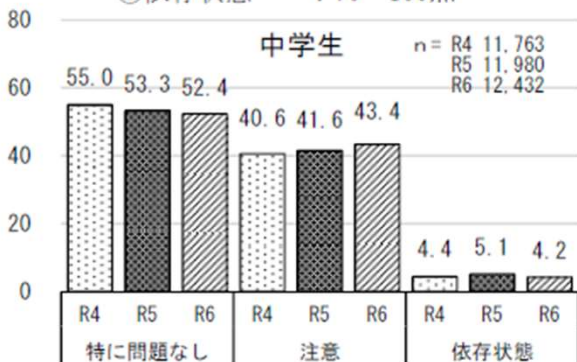
低い：0～2個 中：3～4個 高い：5～8個

◆中・高校生：詳細版20項目 ※各項目5点の点数化で判定

総得点 ①特に問題なし：20～39点

②注意：40～69点

③依存状態：70～100点



◆簡易版8項目（小学生）

- ①ネットに夢中になっていると感じることがある。
- ②満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。
- ③ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびある。
- ④ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。
- ⑤使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。
- ⑥ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがある。
- ⑦ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがある。
- ⑧自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。

◆詳細版20項目（中・高校生）

- ①気がつくと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- ②長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- ③家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- ④ネット等を介して、新しく知り合い（友人を含む）を作ることがある。
- ⑤まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- ⑥ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- ⑦ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある。
- ⑧他にやらなければならないことがあっても、まず先に、SNSやメールなどをチェックすることがある。
- ⑨人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- ⑩日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- ⑪気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- ⑫ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- ⑬ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- ⑭夜遅くまでネット等に関わることで、睡眠時間が短くなっている。
- ⑮ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- ⑯ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- ⑰ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- ⑱ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- ⑲誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- ⑳ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より）

(4) 成果と課題

- ・「家庭のルールがある」割合は、全校種で増加している。
＜小＞ R5: 55.9% → R6: 57.8% ＜中＞ R5: 46.0% → R6: 49.4%
＜高＞ R5: 20.6% → R6: 22.6%
- ・「ペアレンタルコントロールを利用している」割合は、全校種で増加している。
＜小＞ R5: 39.2% → R6: 45.3% ＜中＞ R5: 34.4% → R6: 40.0%
＜高＞ R5: 15.7% → R6: 19.1%
- ・「フィルタリングを設定している」割合は、小・中で増加している。
＜小＞ R5: 49.7% → R6: 51.0% ＜中＞ R5: 47.3% → R6: 51.7%
＜高＞ R5: 42.6% → R6: 40.1%
- ・「スマホやネットの危険性を教えてもらったり、学んだりしたことがある」割合は、全校種で高水準を維持している。
＜小＞ R5: 87.7% → R6: 87.2% ＜中＞ R5: 95.4% → R6: 96.0%
＜高＞ R5: 96.8% → R6: 96.0%
- ・「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある」割合は、全校種で増加している。
＜小＞ R5: 6.8% → R6: 9.3% ＜中＞ R5: 8.0% → R6: 9.0%
＜高＞ R5: 9.2% → R6: 9.9%
- ・「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」割合は、小・中で増加、高で減少している。
＜小＞ R5: 5.3% → R6: 8.3% ＜中＞ R5: 6.6% → R6: 6.8%
＜高＞ R5: 4.4% → R6: 4.2%
- ・「平日1日に、平均3時間以上スマホを利用している」(学習の目的で利用する時間を除く)割合は、全校種で増加しており、引き続き、利用時間や内容等の把握に努めていく必要がある。
＜小＞ R5: 21.9% → R6: 24.0% ＜中＞ R5: 30.7% → R6: 31.4%
＜高＞ R5: 32.0% → R6: 34.0%
- ・「ネット利用による、悩みや不安」の内容別の割合は、全ての校種で「睡眠不足や視力の低下などの健康の問題に関すること」が高くなっており、スマホ等の利用が及ぼす生活リズムや健康面への影響についての啓発を充実させていく必要がある。
＜小＞ R5: 39.6% → R6: 34.9% ＜中＞ R5: 45.0% → R6: 49.2%
＜高＞ R5: 32.1% → R6: 41.7%

(5) 今後の取組

(政令指定都市である岡山市を除く)

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動による適切な利用や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

① 児童生徒の主体的な活動の促進

スマホサミット後継事業等により、情報端末の学習や、日常生活におけるアプリ等の有効活用に関する協議・取組やスマホやネットの適切な利用を促進する。

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・ 各校の生徒指導担当者等を対象とした県教委主催の研修会において、スマホ等の利用の実態を周知し、各校において教科指導の場面だけでなく、外部講師の出前授業を行うなど、情報モラル教育の推進と充実を図る。また、スマホの長時間利用による生活リズムの乱れや、健康面の影響についても啓発を進める。
- ・ 中核教員の養成研修を経た教員を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施する。
- ・ 県警と連携した「非行防止教室」の実施や、県独自に作成したSNS等による特殊詐欺に関する啓発チラシの積極的な活用に加え、SNS上のいじめ等の事例を取り上げた授業を行うなど、児童生徒が情報を正しく判断し、行動する力の育成を目指す。
- ・ 校内研修資料を作成し、各校に提供する。

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・ 既存の啓発チラシに加え、昨年度、新たに小学生と保護者向けに作成した啓発チラシを保護者懇談等で直接周知することで、家庭のルールを親子で一緒に見直したり、考えたりするきっかけとする。
- ・ 家庭学習の充実を図るために、保護者に提示している家庭用資料にタブレット端末の活用についての留意点を記載し、家庭での端末利用に関するルールづくりについて啓発を進める。
- ・ 「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンの中で、学校と家庭の連携による、スマホ・ネットの適切な利用に関する取組を推進する。また、好事例を活動資料で紹介する。
- ・ ルールづくりに関する参加型のワークショップ(利用時間制限やアプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等)を実施する。

④ 情報端末の学習への活用を推進

- ・ 県総合教育センターHPで紹介している教職員のICT活用指導力向上のための「教育の情報化ユニット研修(GIGA端末導入期編31項目)」とあわせて、動画資料の「教育の情報化ユニット研修プラス(授業づくり編5項目)」により、具体的な活用方法を示していくことで、情報端末の学習への活用を推進する。

スマホ・ネット問題総合対策の推進

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等



子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル
- * 闇バイトに関連した非行や犯罪被害

現状と取組の目標指標

○家庭でのルールづくりの促進（「家庭でのルールがある」と答えた割合）

R1実績 小(61.9%) R6実績 小(57.8%) R6目標値 小(65%)
(目標設定時) 中(49.4%) ⇒ 中(49.4%) 中(55%)



学 校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット』後継事業の開催
 - ・ 中学生部会、高校生部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
 - ・ スマホ・ネットの適切な利用等に関する意見交換

ネット依存への対策

継続・成果普及

【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
 - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
 - ・ 教職員への研修の充実

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

継続

【教育委員会】

- 悩みや不安を抱えた時の匿名相談アプリ活用事業
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめや悩み等を相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

実態把握に基づく対応の推進

継続

【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
 - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

連携

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- 保護者研修の充実
 - ・ PTA等指導者研修などで子どもをめぐるスマホ・ネット問題についての学習機会を確保し、各PTAでの取組を促進
 - ・ 啓発資料を活用し、ペアレンタルコントロールの重要性や設定方法を周知
 - ・ 入学説明会や就学時健診で「親育ち応援学習プログラム」等の参加型ワークショップを実施し、スマホ・ネットの適切な利用や家庭でのルールづくりを促進
 - ・ スマホ・ネット問題に関わるPTA活動の好事例を収集し、活動資料で紹介
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

連携

関係機関等と連携した対応

継続

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進 【子ども家庭課】
- 『非行防止教室』
 - ・ SNS等に起因する犯罪被害や非行、いじめ等の実例を交えながら適正利用やフィルタリングの重要性、携帯電話業者と合同した授業を推進 【県警本部少年課】
- ネットパトロール
 - ・ インターネット上のいじめや犯罪被害等から児童生徒を守るため、早期発見・早期対応の観点から、学校非公式サイト等の検索・監視を実施 【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築